

ぐんま緑の県民基金事業

～みんなの森をみんなで守ろう～

令和4年度

実施報告書

令和5年3月

群馬県

も く じ

●はじめに	1
●目指すべき目標.....	1
●期間	1
●令和4年度ぐんま緑の県民基金事業の総括.....	2
●ぐんま緑の県民税評価検証委員会の総括意見.....	3
●令和4年度ぐんま緑の県民基金事業の実施概要	4
○Ⅰ 水源地域等の森林整備	5
○Ⅱ 森林ボランティア活動・森林環境教育の推進	10
○Ⅲ 市町村提案型事業（市町村補助）	13
○Ⅳ 制度運営	18
○Ⅴ ぐんま緑の県民税評価検証委員名簿.....	22
○Ⅵ 資料集（別冊）	

○ はじめに

群馬県は、県土の3分の2を森林が占めています。

豊かな水を育み、また災害を防止するなど、私たちの暮らしを支え、多くの恵みをもたらす森林は、県民共有の財産です。

県では、この大切な森林を守り、育て、次世代に引き継いでいくため、県民税均等割の超過課税として「ぐんま緑の県民税」を平成26年4月から導入し、様々な施策に取り組んでいます。

○ 目指すべき目標

木材価格の低迷や山村地域の過疎化・高齢化などにより放置され、荒廃が進む森林の整備を進めるため、また、森林を取り巻く新たな課題に対応するため、次の目標に向けて施策を進めます。

● 豊かな水を育み、災害に強い森林づくり

● 里山・平地林等の森林環境を改善し、
安心・安全な生活環境を創造

○ 期間

- 第Ⅱ期事業期間 5年間(令和元年度から令和5年度)
- 第Ⅱ期課税期間 5年間(個人:令和元年度課税(平成30年所得分から))
(法人:平成31年4月1日以降に終了する事業年度分から)

令和4年度ぐんま緑の県民基金事業 総括

ぐんま緑の県民税評価検証委員会は、税の使途の透明性・公平性を確保し、事業内容の意見聴取を行うため、平成26年に設置され、平成26年度に3回、平成27年度に3回、平成28年度に2回、平成29年度に3回、平成30年度に6回、令和元年度に4回、令和2年度に4回、令和3年度に4回、令和4年度に5回、計34回の委員会を開催しました。

□ ぐんま緑の県民税評価検証委員会の総括意見

ぐんま緑の県民税によって展開している水源地域等の森林整備事業、森林ボランティア活動・森林環境教育の推進、市町村提案型事業、制度運営について、それぞれ委員から意見が提出された。

水源地域等の森林整備事業においては、主として奥地の森林の間伐等を行うことで、水源かん養機能を向上させ、土砂災害を防止するなど森林の持つ公益的機能を増進するための事業が展開されており、事業のうち大きな割合を占めている。

森林ボランティア活動の推進においては、研修会等の開催により林業従事者のみならず、幅広い担い手の育成に力を注いでいる。また、森林環境教育の推進においては、指導者の養成や派遣に取り組んでいる。

市町村提案型事業においては、里山の竹林整備による電線や道路などのインフラ保全や、緩衝帯整備による獣害対策などを実施しており、地域により目的が明確に分かれていることがうかがえる。

制度運営については、事業内容について明らかにした上で、評価検証委員会に意見が求められており、県民の大切な税金が活用されていることを踏まると意義深いことだといえる。

ぐんま緑の県民税を財源とした各事業において、概ね高く評価ができ、さらなる事業継続に期待する。

一方で、ぐんま緑の県民税の認知度が低いことは課題である。現地見学会の開催や公開討論会、マスコミの利用等により、ぐんまの森林について、県民に知ってもらう機会を作るべきである。

また行政、県民、評価検証委員会を含め、森林生態系に関する知識、理解が不足しているため、専門家による勉強会のような講演などを開催してはどうだろうか。

さらに、ぐんま緑の県民税を活用した結果、「健全な森林の育成・維持により群馬県の森林が二酸化炭素の吸収と炭素の蓄積に貢献している」ともいえるため、伝え方を工夫することにより平野部の県民の意識も高まるのではないだろうか。

令和6年度から、森林環境税の導入が開始されるため、ぐんま緑の県民税の意義をPRすることは一層重要性を増すことと思われる。

令和4年度ぐんま緑の県民基金事業の実施概要

財源

【収入】基金(基金残高・税込、寄附金、運用益、諸収入)
1,302,116千円

(内訳)・基金残高417,726千円・税込877,408千円
・寄附金 6,952千円・運用益 30千円

使い道

【支出】ぐんま緑の県民基金事業 890,702千円
※令和5年度へ繰越として実施する事業 279,798千円

I 水源地域等の森林整備 610,909千円 【林政課】

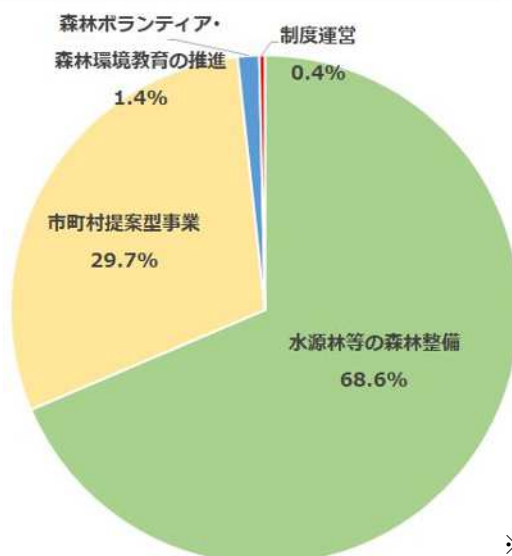
(内訳) ・令和3年度繰越事業 318,551千円
・令和4年度事業 292,358千円
※令和5年度へ繰越として実施する事業 279,798千円

II 森林ボランティア活動・森林環境教育の推進12,242千円 【林政課】

III 市町村提案型事業 264,405千円 【林政課】

IV 制度運営(普及啓発・第三者機関・調査研究)3,147千円 【林政課・林業試験場】

令和4年度総事業費に占める各事業の割合



※端数処理のため合計値は合致しません

I 水源地域等の森林整備

1 概要

● 条件不利地森林整備

地理的、地形的な条件により林業経営が成り立たず放置されている条件不利な森林を対象として、間伐などの森林整備を実施します。

● 水源林機能増進

市町村が管理する簡易水道等の上流部の森林であって、水源涵養機能等の低下が懸念される森林を対象として、間伐などの森林整備を実施し、水源涵養機能の増進を図ります。

● 松くい虫等被害地の再生

松くい虫被害木が放置され、笹や竹が繁茂した森林を対象として、コナラやスギなどを植栽し、新たな森林へ再生を図ります。

2 事業の流れ

① 区域調査委託

事業区域の検討や森林所有者の調査を実施し、判明した森林所有者に対して、事業説明や実施に関する承諾を得ます。



② 実施計画調査委託

森林所有者から承諾を得た森林を対象に、事業の実施区域の測量や標準地調査を実施します。



③ 森林整備の実施

調査結果を基に間伐等の森林整備を実施します。



3 整備イメージ

現状

- ・手入れがされず、公益的機能が低下した森林
- ・林内は暗く、下層植生が乏しい



- ・間伐の実施により、林床に光をあてて、下草などの下層植生を回復させる



将来

- ・下層植生が回復し、公益的機能の高い森林へ移行



4 実施状況

【令和4年度の実績】

610,909千円

(内訳)令和3年度繰越事業 318,551千円

令和4年度事業292,358千円(事務費・システム使用料1,715千円含む)

計610,909千円 ※令和4年度へ繰越として実施する事業 279,798千円

○条件不利地森林整備

・区域調査

R3 繰越: 511ha
R4 実績: 554ha
R5へ繰越: 45ha

・実施計画調査

R3 繰越: 50ha
R4 実績: 305ha
R5へ繰越: 100ha

・森林整備

R3 繰越: 281ha
R4 実績: 96ha
R5へ繰越: 287ha

○水源林機能増進

・区域調査

R3 繰越: -ha
R4 実績: 132ha
R5へ繰越: 36ha

・実施計画調査

R3 繰越: 19ha
R4 実績: 183ha
R5へ繰越: -ha

・森林整備

R3 繰越: 174ha
R4 実績: 119ha
R5へ繰越: 145ha

○松くい虫等被害地の再生

・区域調査

R3 繰越: -ha
R4 実績: -ha
R5へ繰越: 3ha

・実施計画調査

R3 繰越: -ha
R4 実績: 6ha
R5へ繰越: -ha

・森林整備

R3 繰越: 9ha
R4 実績: 4ha
R5へ繰越: 8ha



着工前



完成

条件不利地森林整備(南牧村)



着工前



完成

条件不利地森林整備(安中市)



水源林機能増進（高崎市）



水源林機能増進（渋川市）



松くい虫被害地の再生（藤岡市）下刈



松くい虫被害地の再生（桐生市）下刈

5 成 果

- ・ 令和4年度に、令和3年度繰越予算分として464.20ha、令和4年度予算分として219.09ha、計683.29haの森林整備を実施しました。
- ・ 計画的な森林整備を推進するため、1,195.70haの区域調査(令和3年度繰越事業510.66ha、令和4年度事業685.04ha)を優先して実施した結果、約654haの森林について協定が締結され、森林整備の準備が整いました。

6 課題・方向性

- ・ ぐんま緑の県民基金 事業は第Ⅱ期の4年目が終了したところですが、第Ⅱ期(5年間)の目標4,100ha に対して52%となる約2,151ha の森林整備を実施しました。
- ・ 所有者不明の森林の増加や、所有規模の小規模・分散化などの進行により、事業地の選定に多くの労力や時間を要し、早期の森林整備の発注に支障をきたしています。
- ・ 第Ⅲ期においては整備目標である10,000ha の森林整備を実施するため、GISの活用等により整備が必要な森林を抽出するとともに、計画的な森林整備地の確保に努めます。
- ・ 一部の事業地において、森林整備を行っても林内照度の改善効果が低い箇所がありました。林業試験場の調査結果を受けて間伐率等の施業方法を検討し、針広混交林化を推進します。
- ・ 近年の労働災害が増加傾向にあることから、発生要因を把握するとともに、作業方法等を見直すことにより、労働災害の防止に努めます。
- ・ 森林経営管理制度を運用する市町村との連携により、意向調査結果等を共有することにより、整備が必要な森林の効率的な整備を進めます。

7 評価検証委員会の意見

各委員からは、

- ・コロナ禍をはじめ、様々な困難な状況のもと第Ⅱ期4年目にして、5年間の目標 4,100ha に対して 52%の 2,151ha の森林整備が実施されたのは大きな成果だと考える。
- ・すべての条件不利な森林で施業が実施されることは困難であると想定される。
- ・木材価格の低迷により、所有者による森林の管理は困難であり負担となっているが、本事業により整備が進められている。
- ・所有者不明森林の増加や、所有規模の小規模・分散化など様々な課題もあるが、GIS の活用や市町村との連携により効率的な整備が進むよう期待したい。
- ・GIS の活用という課題を示しているが、これを活用することにより、どのような方法で所有者不明の森林の整備を進めるのか、行政で早急に検討してほしい。ぐんま緑の県民税の課税が開始されてから 10 年経ってもこれが解決しないようでは問題である。
- ・条件不利地において、適切な間伐を行ったうえで、針広混交林化または天然林化を進めることは、土砂災害防止等の災害対策の観点から有効であると評価できる。
- ・針広混交林化は、研究が進んでおらず困難であるため、現実的な対策を検討すべきである。
- ・マツ枯れ後の森林については、ナラ枯れの原因となるコナラの単層林にするのではなく、潜在自然植生の回復を図るべきである。
- ・本事業実施に係る労働災害が多いとの報告があることから、作業方法等の見直しにより労働災害発生防止に努めていただきたい。

などの意見が提出されており、概ね評価されている。

一方で、所有者不明森林の整備やどのように針広混交林化を図るのかなどの課題が提起されている。

Ⅱ 森林ボランティア活動・森林環境教育の推進

1 概要

● 森林ボランティア活動の推進

「森林ボランティア支援センター」の運営、専用ホームページや情報誌、メールマガジン等による情報の発信のほか、刈払機取扱等の安全指導、森林整備作業器具の貸出など、森林ボランティア活動への一体的なサポートを実施しました。また、「森林ボランティア体験会」や市町村提案型事業等への講師・コーディネーターの派遣業務等を実施しました。

● 森林環境教育の推進

「緑のインタープリター」を養成し、小中学生を対象にしたフォレストリースクールや市町村提案型事業(森林環境教育)、緑の少年団育成事業、県民を対象にした自然観察会、自然講座等への派遣などを通じて森林環境教育に取り組みました。

2 実施状況

【令和4年度の実績】

12,242千円

○森林ボランティア活動の推進

- ・森林ボランティア支援センターの運営
- ・専用ホームページ「モリノワ」の運用
- ・情報誌「モリノワ」
- ・森林整備作業用の機械・器具の貸出し:57回
- ・安全講習会 開催回数9回
参加人数:135名
- ・森林ボランティア体験会 開催回数:3回
参加人数:41人

○森林環境教育の推進

- ・緑のインタープリター登録者数:125名
- ・フォローアップ研修 開催回数:12回
- ・緑のインタープリター養成講座:10名
- ・森林環境教育コーディネーター派遣:26回



3 成果

○森林ボランティア活動の推進

- ・森林ボランティア支援センターを運営し、森林ボランティア向けの専用ホームページや情報誌による情報発信のほか、刈払機取扱等の安全講習会、新規参入者を増やすためのボランティア体験会、森林整備作業器具の貸出等により、森林ボランティア団体の活動を支援しました。
- ・令和4年度末の森林ボランティア団体数は94団体と減少傾向にあります。

○森林環境教育の推進

- ・「緑のインタープリター活動登録制度」により、125名の方を指導者として登録し、森林環境教育の推進を図りました。
- ・「緑のインタープリター」の養成と資質向上のため、養成講座とフォローアップ研修を実施しました。
- ・緑のインタープリターは、市町村提案型事業(森林環境教育)や小・中学生のためのフォレストリースクール、「親子森であそぼう森で学ぼう教室」等において、講師として活動しました。
- ・市町村提案型事業(森林環境教育)を円滑に運営するために、森林環境教育コーディネーターを派遣しました。

4 課題・方向性

○森林ボランティア活動の推進

- ・森林ボランティア支援センターの運営に指定管理者制度を導入し、民間のノウハウを活用した効果的な情報発信や、森林ボランティア体験会、安全講習会により新規参入者の確保を図ります。

○森林環境教育の推進

- ・市町村提案型事業(森林環境教育)やフォレストリースクールなど、森林環境教育の参加者数は増加傾向にあります。森林や環境に対する県民の関心と理解を深めるためには、幅広い知識や技術を持つ指導者の確保と資質の向上が不可欠なことから、引き続き緑のインタープリター養成講座やフォローアップ研修を実施し、指導者養成を図ります。

5 評価検証委員会の意見

各委員からは、

- ・ボランティアの担い手は個人や企業であり、必ずしも林業経験が豊富とはいえないため、行政による実技指導や労働安全教育によるバックアップが重要である。
 - ・森林ボランティアの高齢化は問題であるが、担い手としてはシニアが重要である。退職後の方に、積極的に関わってもらえるような仕組みを作るべきである。
 - ・森林ボランティアや森林環境教育が県民の身近なものになることで、森林環境の保全や災害に強い森づくりへの関心や理解が広まることは明白であるが、活動参加者の高齢化は否めず世代交代が必要になってきている。
 - ・カーボンニュートラルの考え方が広まっており、企業へ向けて本分野への参加、協力をPRすることも必要ではないか。
 - ・森林ボランティア団体数の減少は残念である一方で、森林整備作業用の機器の貸出、安全講習会やフォローアップ研修の開催回数、緑のインタープリター養成講座の開催、森林環境教育コーディネーターの派遣回数が増加しているのは高く評価できる。成果がすぐに実感できる事業ではないため、様々な方法を試しながら継続することが必要だと思う。
 - ・専用ホームページ「モリノワ」が検索された際、上部に表示されるように、検索エンジンのヒット率を向上させる手続きをしてみてもどうか。
 - ・中高年にはフェイスブック、若年層にはインスタグラム、X(旧ツイッター)等のターゲット年代に合わせたSNS活用が必要ではないか。フェイスブックは投稿が古く、フォローしていてもタイムラインに上がってこない状況である。
 - ・義務教育において、世界や日本の森林の現状、群馬県の森林、ぐんま緑の県民税、ぐんま緑の県民基金事業の成果について説明するパンフレットを作成してはどうか。学校にも参画してもらい、授業で使えるものを作成してほしい。
 - ・緑のインタープリター養成講座や、フォローアップ研修を実施し、エキスパート人材の養成に力を入れてほしい。
- などの意見が寄せられた。

林業従事者のみですべての森林整備を行うことは不可能であり、森林ボランティア団体等の活動の推進や森林環境教育は、非常に重要となっている。

Ⅲ 市町村提案型事業（市町村補助）

1 概要

● 荒廃した里山・平地林の整備

市町村と地域住民や NPO・ボランティア団体等の協働による地域に根ざした森林整備を支援します。

● 貴重な自然環境の保護・保全

市町村あるいは市町村と地域住民が行う、県動植物レッドリストで野生絶滅種及び絶滅危惧種Ⅰ、Ⅱ類に指定されている種（約650種）が生息している地域の保護・保全活動を支援します。

● 森林環境教育・普及啓発

児童生徒や県民を対象とする森林環境教育及び森林体験活動を支援します。

森林の機能や重要性について普及啓発する取り組みを支援します。

● 森林の公有林化

水源地域の森林や平地林の購入（公有林化）あるいは平地林を造成しようとする市町村を支援します。

● 独自提案事業

ぐんま緑の県民税の趣旨・目的に適合し、適切な事業であると認められ、評価検証委員会の承認を得た事業を支援します。

2 実施状況

【令和4年度の実績】

264,405千円

（1） 令和4年度採択状況

- ・ 令和4度は以下の事業を採択しました。

	計			事業計画量
	市町村数	事業数	補助金額 (千円)	
荒廃した里山・平地林の整備	26	362	177,542	森林 20.5ha 竹林 19.5ha、管理 373.4ha
貴重な自然環境の保護・保全	8	17	3,912	17箇所 動物 11種、植物 21種
森林環境教育・普及啓発	22	58	28,138	
森林の公有林化	-	-	-	
独自提案事業	16	24	72,471	森林 4.5ha、竹林 1.9ha ほか
合計	35	461	282,063	

(2) 令和4年度事業実績

・令和4年度は以下の事業を実施しました。

	完了			事業量	参考:繰越			(廃止)		
	市町村数	事業数	補助金額 (千円)		市町村数	事業数	補助金額 (千円)	市町村数	事業数	補助金額 (千円)
荒廃した里山・平地林の整備	26	342	172,173	森林 15.9ha 竹林 19.4ha 管理 376.4ha	—	—	—	8	20	4,479
貴重な自然環境の保護・保全	8	17	3,377	17箇所 動物 11種 植物 20種	—	—	—	—	—	—
森林環境教育・普及啓発	22	47	22,444	11,426人	—	—	—	6	11	2,213
森林の公有林化	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
独自提案事業	15	23	66,411	森林 3.5ha 竹林 2.5ha	—	—	—	1	1	627
合計	35	429	264,405		—	—	—	12	32	7,319

・市町村提案型事業の実施状況



荒廃した里山・平地林の整備（藤岡市）



荒廃した里山・平地林の整備（昭和村）



・市町村提案型事業の実施状況



荒廃した里山・平地林の整備（東吾妻町）



荒廃した里山・平地林の整備（桐生市）



貴重な自然環境の保護・保全（伊勢崎市）



貴重な自然環境の保護・保全（安中市）



森林環境教育・普及啓発（太田市）



森林環境教育・普及啓発（玉村町）



独自提案事業（館林市）



独自提案事業（高崎市）

業務名	高崎市クマノエツツミプロジェクト 中心部業務（市道下見見地帯）
工種	
測点	高崎市上大島町外

3 成果

- ・ 今まで継続してきた事業箇所に加え、新たな事業箇所として18箇所が追加され、令和4年度は、県内全市町村において429箇所で行った事業が実施されました。
- ・ 事業実施により、野生鳥獣の出没抑制、生活道路等の見通しの確保や冬季の凍結防止等の効果が発揮され、地域住民の安全安心が図られました。
- ・ 自然環境の保護・保全については、貴重な動植物の生息環境を整備するための17箇所で行った刈り払いや伐採等の活動を行いました。
- ・ 森林環境教育については、11,426人の参加があり、地域の特徴に合わせた様々な森林環境教育を行いました。

4 課題・方向性

- ・ 里山平地林の整備における管理事業は、年々面積が増加している一方で、管理団体の構成員の高齢化、地域の人口減少により作業が負担となっています。そのため、市町村と連携し、ボランティア団体の育成や必要な支援を検討していきます。
- ・ 第Ⅰ期から事業を実施しており、協定期限が切れる里山・平地林の整備を行う場合は、改めて管理団体と協定を締結したうえで継続的な管理を支援します。
- ・ 災害時の停電「ゼロ」を実現するため、関係者、市町村、県が連携するなど事前伐採の取り組みを進めていきます。
- ・ 独自提案型事業では、既存メニューでは、対応できない地域特有の課題に対応し、クビアカツヤカミキリ被害対策や安心・安全な生活環境の保全などに取り組みます。
- ・ 市町村提案型事業の事例集を作成・配布を行い、各市町村に改めて事業の周知を行うことで事業実施を推進します。
- ・ ぐんま緑の県民税第Ⅲ期に向けて、補助要件等を整理し事業のさらなる促進に努めます。

5 評価検証委員会の意見

各委員からは、

- ・荒廃した里山・平地林の整備については、事業数が多く、民有地を対象としているため、所有者による整備指導を徹底したうえで、どうしても必要がある場合に限り、ぐんま緑の県民税の利用が可能であるという説明をすることが重要である。
- ・荒廃した里山・平地林の整備については、森林整備と竹林整備に大別されているが、単位面積当たりの整備に要する費用は、竹林整備が非常に大きくなっていることがうかがえる。
- ・事業者発注による整備の必要性も理解できるが、粉碎機貸出等により、地域団体等によるこまめな整備実施を推奨したい。
- ・荒廃した里山・平地林の整備において、業務として管理を請負うケースと、ボランティアとして管理を行うケースがあるが、有償、無償の区分を明確にしておく必要があるのではないかと。
- ・荒廃した里山・平地林の整備の管理事業では、地元住民の高齢化や減少から管理委託の割合が多くなっている。円滑な管理委託のため、委託費算定基準の見直しが必要ではないかと。
- ・コロナ禍で開催が少なかった学校主催の森林環境教育・普及啓発が増えており、このような機会を通して、若年層に森林の実情と課題を知ってもらう取組はとても大切である。
- ・地域住民の生活の安全・安心に直面した課題解決に対応する事業が多く、ぐんま緑の県民が有効に活用されていることが県民に伝わるよい機会になっている。さらなる周知を図るため広報活動に期待したい。
- ・全市町村で事業が実施され、事業数も増加するなど、地域住民の目に見え、感じられる事業として実施されており高く評価できる。
- ・市町村を越えた人材確保や事業の提案など、様々なことに対応できるように検討してほしい。また、事業申請にあたり、県から計画作成等の助言が受けられるように、窓口である市町村と連携した対応をしてもらいたい。

などの意見が寄せられた。

各市町村に市町村提案型事業の効果が周知されることで、要望が増えることが予想されるが、地域住民にとって身近に事業実施の成果が感じられる事業であり、多くの申請が採択されることに期待したい。

Ⅳ 制度運営

1 概要

● 普及啓発

県民にぐんま緑の県民税への理解を深めてもらうため、税のしくみや森林の役割の大切さについての普及啓発活動を実施します。

● 意見聴取

事業について意見聴取を行う「ぐんま緑の県民税評価検証委員会」を運営します。
事業の客観的な効果検証を行うため、県の林業試験場による調査・分析を実施します。

2 実施状況

【令和4年度の実績】

3, 147 千円

○普及啓発

【令和4年度の実績】

586 千円

- ・ 広報媒体を利用した普及啓発(県HP、チラシ 40,000 枚)
- ・ イベント出展での PR 活動(植樹祭、ぐんまフェア、環境フェスティバル)
- ・ 市町村提案型事業実施時の PR



○第三者機関の運営

【令和4年度の実績】

1, 151 千円

- ・ 評価検証委員会の開催(4回)
 - 1回目:令和4年 5月24日 ……書面開催
 - 2回目:令和4年 9月8日 ……書面開催
 - 3回目:令和4年 9月20日 ……県庁29階 第1特別会議室 14:00～16:20
 - 4回目:令和4年 1月30日 ……書面開催
 - 5回目:令和4年 3月23日 ……県庁29階 第1特別会議室 10:00～11:50
- ・ ぐんま緑の県民税県民アンケートの実施



評価検証委員会

ぐんま緑の県民税
県民アンケート

報告書



県民アンケート報告書

○調査研究

【令和4年度の実績】

1, 410 千円

- ・ 水源地域等の森林整備事業地を対象に、安定的かつ高い間伐効果を発揮できる間伐方法の検討
- ・ 県内27箇所を設定した調査対象地のモニタリングを実施
(間伐後の光環境の改善及び下層植生の回復状況調査等)



スギ無間伐



スギ強度間伐



ヒノキ無間伐



ヒノキ強度間伐

人工林の強度間伐による下層植生の回復

3 成果

○普及啓発

- ・ ぐんま緑の県民基金を広く普及啓発するため、普及啓発用チラシ(山と森のイベント一覧)の作成、各種メディア媒体を活用した広報活動を実施しました。また、各種イベントにおいても事業のPRを行いました。

○第三者機関の運営

- ・ 年5回の評価検証委員会を開催し、令和4年度に実施する市町村提案型事業 461 事業の採択などを行った議事の内容や審議結果を公表しました。
- ・ ぐんま緑の県民税県民アンケートを実施し、認知度等の調査を行いました。

○調査研究

- ・ 県の林業試験場において「人工林における強度間伐後の樹冠疎密度の推移に関する研究」を継続実施しました。

4 課題・方向性

○普及啓発

- ・ 県民に事業の成果やその効果について理解を深めてもらうことや、課税期間の延長について、広報を行うため、広報内容や発信方法を工夫し、効果的な普及・啓発活動に努めます。
- ・ 包括連携協定締結企業等と連携し、広く周知を行います。

○第三者機関の運営

- ・ 事業実施団体等の意見や、評価検証委員会の評価・助言を通じて明らかになった課題の解決に努めます。

○調査研究

- ・ 群馬県林業試験場における研究を継続し、高い間伐効果を発揮できる間伐方法の把握に努めます。

5 評価検証委員会の意見

各委員からは、

- ・普及啓発用のポスター、チラシの設置箇所については、県内の市町村ごとにあるボランティアセンター等を検討してはどうか。
- ・県主催のシンポジウムの開催をしてほしい。イベントを通して、制度の認知度が向上すると思われる。また、メディア(テレビや Youtube)も積極的に活用すべきである。
- ・市町村と連携した PR 活動を一層進めることにより、住民レベルの理解度を高められるのではないか。
- ・市町村提案型事業のように、県が実施する学校提案型事業、企業提案型事業があればより身近な事業を展開できるのではないか。
- ・県民アンケートを実施し、ぐんま緑の県民税の認知度等の調査をしたことは評価できる。
- ・評価検証委員会での意見を反映する努力が感じられ、年々報告書や資料もわかりやすくなっているのは評価できる。
- ・評価検証委員会で年に1度、現場を視察する機会を設けてはどうか。
- ・多様な森林の育成のために林業試験場の調査研究に期待したい。
- ・林業試験場だけではなく、森林総合研究所などと連携をとり、他の研究者を含めて調査研究をしてはどうか。

などの意見が寄せられた。

ぐんま緑の県民税は、県民が負担する税金であるため、県民全体に利点があることを説明する必要がある。県民アンケートの結果を踏まえ、認知度の向上や県民の要望などが本事業に反映されることを期待したい。

V ぐんま緑の県民税評価検証委員名簿

(任期 : 令和3年4月1日 ~ 令和5年3月31日)

(五十音順 敬称略)

氏名	職業・役職等	備考	
西野 寿章	高崎経済大学地域政策学部 観光政策学科教授	学識経験者 (森林環境保全)	委員長
飯島 明宏	高崎経済大学地域政策学部 地域づくり学科教授	学識経験者 (環境科学)	任期 令和5年1月11日~
木村 正一	太田市副市長	平地林代表市町村	
木樽 千恵子	群馬県生活協同組合連合会理事	消費者団体	任期 令和4年6月16日~
草場 史子	群馬県NPO協議会幹事	NPO・ボランティア活動	
黒田 まり子	川場村議会議員 尾瀬自然ガイド	環境教育	
後藤 孝	きのこ生産者	森林・林業関係者	
須藤 美由貴	群馬県商工会連合会 女性部連 合会副会長	経済団体	
高草木 悟	連合群馬事務局長	労働団体	
田中 利恵子	群馬県生活協同組合連合会理事	消費者団体	任期 令和4年6月15日 まで
西村 尚之	群馬大学情報学部 情報学科教授	学識経験者 (森林生態学)	
松下 清枝	苗木生産者	森林・林業関係者	
森平 仁志	甘楽町副町長	山地代表市町村	

(任期 : 令和5年4月1日 ~ 令和7年3月31日)

氏名	職業・役職等	備考	
西村 尚之	群馬大学情報学部 情報学科教授	学識経験者 (森林生態学)	委員長
飯島 明宏	高崎経済大学地域政策学部 地域づくり学科教授	学識経験者 (環境科学)	
磯田 孝友	連合群馬事務局長	労働団体	任期 令和5年11月14日 ~
木村 正一	太田市副市長	平地林代表市町村	
木樽 千恵子	群馬県生活協同組合連合会理事	消費者団体	
草場 史子	群馬県NPO協議会幹事	NPO・ボランティア活動	
黒田 まり子	川場村議会議員 尾瀬自然ガイド	環境教育	
須藤 美由貴	群馬県商工会連合会 女性部連 合会副会長	経済団体	
高草木 悟	連合群馬事務局長	労働団体	任期 令和5年11月13日 まで
松下 清枝	苗木生産者	森林・林業関係者	
森平 仁志	甘楽町副町長	山地代表市町村	



ぐんま緑の県民基金事業

令和4年度 実施報告書

○この実施報告書に関するお問い合わせ先

群馬県森林局環境森林部林政課政策企画係

〒371-8570群馬県前橋市大手町1-1-1

Tel:027-226-3930 Fax:027-223-0463

E-mail: gm-zei@pref.gunma.lg.jp

○ぐんま緑の県民税ホームページ

<http://www.pref.gunma.jp/04/e3000101.html>